

彦根市埋蔵文化財調査報告 第22集

堀 南 遺 跡

— 第 2 次 調 査 —

平 成 4 年 3 月

彦根市教育委員会

序

「行政の文化化」が唱えられてすでに久しいものがありますが、ここ数年は「企業の文化化」ということがいわれています。企業による美術館・博物館・コンサートホールなどの設立といった、ハード面の事業だけでなく、いわゆる「冠イベント」も盛んに行われており、文化に対する社会的ニーズの高まりを反映しているといえます。

最近「住みやすさ」を指標とした都道府県のランキングがありました。この中で重要な指標となっていたのが、自然環境とともに文化的な環境—文化施設の利用度や、文化の享受度—でありました。この観点から見ますと、文化もまた社会資本の一部としてとらえられており、行政の役割がますます大きくなっているといえます。

歴史をふりかえてみますと、「過去に何を生み出し、何を伝えてきたか」をその時代の尺度とすることが可能であり、例えば「縄文時代」といった時代名にも使われております。このように考えますと、文化財は社会的資本のストックの一つであり、私たちの現在の出発点となるものであります。すなわち、過去の人々が残し伝えてきた文化財に対するより積極的な意味をそこに見い出すことになるとともに、文化創造のもとなると考えます。

本書は、堀南遺跡の概要報告書であります。地域の歴史を研究するうえでの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、文化財保護の精神をご理解いただき、発掘調査に多大な協力を惜しまれなかった橋本建設をはじめとする関係各位に、深くお礼を申し上げます。

平成4年3月31日

彦根市教育委員会

教育長 和田 豊 治

例 言

1. 本書は、橋本建設の建設用車両駐車場および資材置場の造成工事に先だって実施した、堀南遺跡の発掘調査報告書である。
2. 今回、発掘調査を実施した場所は、彦根市金剛寺町字上澤95-1番地他である。
3. 調査は、橋本建設の委託を受け、彦根市教育委員会が実施した。
4. 調査は、次の体制で実施した。

彦根市教育委員会	社会教育課長	川北 貢	
	同課長補佐	小寺 廣	(平成3年12月まで)
	同課文化財係長	日夏 秀喜	
	同課文化財係技師	本田 修平	
	同課文化財係技師補	清水 千恵	

5. 現地調査および整理作業には、次の諸氏が参加した。

調査作業員	大堤須美子	鈴木千代	出口加寿夫	中尾芳雄
	西川又治	西村昭三	原 弥助	正田千鶴子
	疋田典嘉	古川 久	松林愛子	
整理作業員	乾 範子	中嶋容子	稗田さよ子	

記して謝意を表したい。

6. 本書で使用している北は、磁北である。
7. 出土遺物等の資料は、本市教育委員会が保管している。

1. はじめに

(1) 地理的環境

堀南遺跡は、彦根市のほぼ中央を横断して流れる犬上川左岸に位置している。現在の犬上川は、鈴鹿山系北端西斜面の水を集め、多賀町・彦根市域を貫流して琵琶湖へと流れ、その堆積作用の大きさが示すように、明確なデルタを形成している。この堆積を繰り返すことで肥沃な沖積地を作るとともに、湖岸には内湖を形成し、豊かな生活の場を育んだと考えられる。

また、当遺跡から上流部は扇状地となっており、部分的には湧水地や、河川の氾濫による土砂を盛ったと考えられる林等が見受けられるが、古墳時代以降に急速に開発されたことは、この地域の後期群集墳の形成からみて考えられよう。奈良時代に入ると、ほぼ2km前後の距離を置いて集落が形成されていく。

(2) 歴史的環境

堀南遺跡では、昭和60年に今回の調査地点の北西側で発掘調査を行い、弥生時代後期から古墳時代初期のものと考えられる方形周溝墓3基を確認している。

これ以前の遺跡としては、旧中山道に沿った南川瀬遺跡で、ごく少量であるが、縄文時代晩期の土器および石器の出土をみており、この時代の扇状地における立地の一つを示すと考えている。

弥生時代の遺跡としては、当遺跡から西へ約2.5kmに位置する馬場遺跡があり、小規模な掘立柱住居跡群と考えられるピットを中心とする遺跡で、中期のものである。

古墳時代以降の遺跡は、前述したように、その規模・量ともに格段の充実をみせる。すなわち、横地遺跡・葛籠北遺跡では、前期の土器が多量に出土するとともに、後期群集墳の小円墳がみられることから、集落の存在が考えられる。また、当遺跡では、前回の調査で、つくりつけかまどを持つ竪穴住居跡も確認している。

奈良時代以降は、各遺跡から掘立柱建物跡が確認されており、ほぼ現在に似た景観を呈すると考えられる。

ところで、古代の犬上川は、現在より北側を流れていたと考えられることから、竹ヶ鼻廃寺等もこの流域に連なる可能性がある。

(3) 調査経過

橋本建設（以下、原因者とする）は、彦根市金剛寺町字上澤95-1番地他の 5,196㎡に、建設用車両駐車場および資材置場の造成工事を計画し、当地の遺跡の有無について事前の照会があった。

当該地は、前述のとおり、以前の発掘調査で方形周溝墓をはじめとする遺構を確認した箇所の東側に隣接する、堀南遺跡の範囲内であった。このため、文化財保護法に基づく事務手続が必要であることを原因者に説明するとともに、事前の調査が必要である旨を回答した。

事務手続については、平成3年4月12日付で、発掘届の提出および調査依頼があり、4月18日付、彦教委社第369号で発掘届の進達ならびに発掘調査通知を滋賀県教育委員会教育長あて提出した。

現地の試掘調査は、平成3年4月25日に行った。造成予定地に9ヶ所のトレンチを設定し、このうち3ヶ所で遺物の包含層を確認した。この結果、包含層は水路より北側の田のほぼ半分に広がるものと考えられた。このため、原因者と再度協議を行い、5月31日付で本調査の委託契約を締結した。

発掘調査は、6月4日から7月2日までのほぼ1ヶ月を要した。その後、出土した遺物や図面等資料の整理を行い、平成4年3月31日をもって全ての作業を完了した。

2. 調査結果

試掘調査では、3カ所の試掘トレンチで包含層を確認した。このうち、東端の田に設定した試掘トレンチでは、砂および砂利層に須恵器等の遺物が入っていた。このように、出土状況から流れ込みによるものと考えられたため、本調査の対象から除外した。このため、調査範囲は、隣り合う田で遺物の包含層を確認した水路より北側の2枚の田としてトレンチを設定した。

試掘調査時の遺物の出土状況から、地形的には微高地から低湿地へ移行する地点と考え、調査対象地域の旧地形を確認できるよう「十」字状に3カ所のトレンチを設定し、北から1・2・3トレンチとして調査を行った。

次に、各トレンチの調査結果を述べる。

(1 トレンチ)

設定したトレンチは、6.5m×12mである。土層は、基本的に砂利層・砂層といった、河床等の跡と考えられる堆積層で、第4層以下が土師器・須恵器を中心とする遺物の包含層

である。この包含層を第6層まで掘り下げたが、湧水が激しく、また、砂利層のため掘り込みを中止した。しかし、下層に遺物があるため、一部を掘り下げて第7層として遺物を取り上げるにとどめた。

この包含層は、前述したように、ある程度流れがあったところに溜った二次的なものであると考えられ、古墳時代初期以降の遺物が混り合っており出土している。

また、ほとんどが比較的小片のものであったが、第7層の青灰色砂層からは、肉厚の羽根をもつ須恵器の甎が出土している。

(2 トレンチ)

このトレンチは、予想できた集落の微高地とほぼ直交するように、6.5 m×25.5 mで設定した。土層は、基本的に粘土層および粘質土層で、第5層以下が包含層である。

湧水が激しく、掘り込み面が盛りあがっては水が噴き出す状態であったため、南側の掘り込みは第4層までで打ち切り、北側のみ調査を続けた。第5層で灰色の砂質土層となり、中央部が南に向かって落ちこむ第6・7層を形成するが、この中に、弥生時代後期以降の遺物が入っていた。ただし、こども湧水が激しく、土器の小片がいっしょに噴き出してくる状態から、第7層以下も包含層であった。

この地点では現在の地下水位が非常に高く、また、第7層に腐植土層がみられることから、地形的には微高地周辺部の低湿地であり、ここに遺物が溜り込んで包含層を形成したと考えられる。

(3 トレンチ)

トレンチは、6 m×9.5 mで設定した。ここは、前回の発掘調査地域に最も近いことから、遺構の検出も予想されたトレンチである。

土層は、前回の調査で遺構を検出した黄褐色粘質土層を第4層で確認した。しかし、この第4層は、トレンチ南端側で急激に落ちこみ、ここに灰黒色粘質土層が堆積していた。この層からは、土師器や須恵器の他、緑釉陶器も出土している。また、1・2トレンチほどではなかったが、やはり湧水がみられた。

以上のことから、掘南遺跡の立地している微高地が、この地点から急激に落ちこんで微高地周辺の低湿地に移行していくことが考えられ、集落の南端が確認されたといえよう。

3. ま と め

掘南遺跡では、前回の調査で古墳時代初期とみられる方形周溝墓3基、つくりつけかまどを持つ竪穴住居跡1棟、掘立柱建物跡2棟を確認している。このうち、方形周溝墓の周

溝内の1つの土器群は、「受け口」の鉢の中に脚部のない高杯が入り、更にその中に小型の器台が入れられていた。この出土状況が偶然の所産でないとすれば、入れ子にして供献した一つの形態を表すものと考えている。

今回の調査では、多量の古墳時代初期以降の土器が出土していることから、集落がかなりの範囲に広がっていた可能性を示すものと考えられる。また、集落の南側には地下水位の高い低湿地が広がり、その東側には河床もしくは氾濫原等かなり水流のあった地形であり、ここに集落から多量の遺物が流れこんだと考えられる。

遺物は、土師器・須恵器の他、灰釉陶器・緑釉陶器を出土している。このうち、緑釉陶器は軟質の生地に緑釉をかけたもので、高台に段のつくものであった。このことから、集落の存続した時代は、古墳時代前半から平安時代にかけてと考えられる。

また、周辺の遺跡との関係を考えれば、当遺跡から東へ約1kmにある横地遺跡もほぼ同時期のものであり、両者の関係が問題となる。しかし、今回の調査で東側に砂利層や砂層がかなり厚く堆積していたことを考え合わせれば、両者の間に小河川もしくは氾濫原等の地形的な区切りがあったと考えられる。このようにみると、弥生時代後期のこの付近は、低湿地の中の島状の微高地に、点々と集落が形成される景観であったと考えられる。

前述したように、今回確認した包含層では古墳時代初期から平安時代にかけての遺物を含んでおり、この期間の沖積地化があまり進まなかったことを示しているとみられる。彦根市域では、まだ前期古墳が発見できていないことを考え合わせれば、重要な意味をもつものであると考えられる。しかし、まだまだ資料不足であり、今後の調査を待ちたい。

以上のように、今回の発掘調査では、堀南遺跡の地理的環境がある程度復元できたといえ、今回の資料は、扇状地扇端部から沖積地へと変わる地域の遺跡の存在様式の一つを示しているものと考えられる。

堀南遺跡出土土遺物観察表

番号	種類・器形	法量(cm)	形	産	調	整	胎土・色調・焼成	備考
1	須恵器 甌	口径18.8	○ 体部は弱く内傾して立ち上がり、口縁部は内湾して丸くおさめられる。 ○ 頸部は断面「U」字形をなし、厚手でしっかりと作られる。	○ 体部内面、ロクロナデ調整。	○ 内外面、ロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	T 第6層	
2	須恵器 高環	脚部径 7.5	○ 細くしぼられた脚柱部から脚端部は「ラッパ」状に開き、端部を垂下させて丸くおさめられる。	○ 外面上および内面下半分、横ナデ調整。 ○ 脚柱部内面は、へう状の工具によるナデ調整。	○ 内外面、ロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	T 第6層	
3	須恵器 環身	高台径12.7	○ 高台は断面「四角形」の貼付高台。	○ 内外面、ロクロナデ調整。	○ 内外面、ロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	T 第5層	
4	須恵器 環身	高台径11.9	○ 高台は狭いナデで外面がやや引き出された、断面四角形の貼付高台。 ○ 体部は内湾して開く。	○ 内外面、ロクロナデ調整。	○ 内外面、ロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	T 第5層	
5	須恵器 環身	高台径11.5	○ 高台はやや外側に引き出された、断面「四角形」の貼付高台。 ○ 体部は内湾して開く。	○ 内外面、ロクロナデ調整。	○ 内外面、ロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：淡灰色 焼成：硬	T 第5層	
6	土師器 壺	口径21.1	○ しまらない頸部から、口縁部は外傾して開き、頸部を平化につくる。	○ 器表剥離のため不明。	○ 器表剥離のため不明。	胎土：良 好 色調：淡梅白色 焼成：軟	T 第5層	
7	土師器 鉢	口径14.4	○ 体部は弱平な球形をなし、口縁部は断面として立ち上がる「受け口」状口縁をなす。 ○ 頸部と頸部下に5条の凹線を入れ、その下にへう状工具による不整形な波状文をつ	○ 体部内面および口縁部内面は横ナデ調整。 ○ 体部外面上部はタナ方向で、その下は横方向のハケ調整。	○ 内外面、ロクロナデ調整。 ○ 内外面、ロクロナデ調整。	胎土：精良 色調：淡白灰色 焼成：硬	T 第5層	

番号	種類・器形	法 量 (cm)	形 態	調 査	表 現	胎土・色調・焼成	種 考
			ける。				
8	土師器 高 杯	脚部径 10.7	○ 脚部のつけ根は太くつくられ、脚部は「ろ うと」状に開き、脚部を丸くおさめる。 ○ すかしは3穴きうがつ。	○ 脚部は器表割脱のため不明であるが、へ う磨き調整か？		胎土：良 好 色調：赤褐色 焼成：やや軟	3 T 第 5 層
9	土 師 器 飯 甌	底部径 5.2	○ 体部は外傾して開き、底部は平に作られ ている。 ○ 底部の穴は整形時にうがかれ、内面に粘 土の盛り上がりがある。	○ 体部は内外面、ハケ調整。 ○ 底部の穴はナデ調整。		胎土：良 好 色調：淡赤黄色 焼成：硬	3 T 第 5 層
10	土 師 器 甌	底部径 5.0	○ 体部は外傾して開き、底部はしっかりし た平底。 ○ 底部の穴は整形時にうがかれ、内面に粘 土の盛り上がりがある。	○ 体部は内外面、ハケ調整。 ○ 底部の穴はナデ調整。		胎土：精 良 色調：明赤褐色 焼成：硬	3 T 第 5 層
11	緑 釉 陶 器 皿	口 径 14.9	○ 体部は中位部で弱く屈曲して開き、口縁 脚部を肩手につくり丸くおさめる。 ○ 内面に弱い段をもつ。	○ 体部は内外面ともにロクロロナデ調整。 ○ 縁脚はつけがけと思われる。		胎土：精 良 色調：胎土は淡褐 色 焼成：やや軟	3 T 第 4 層
12	緑 釉 陶 器 皿	高台径 7.3	○ 高台は、底部内面を強いナデで弱く引き 出された断面「四角形」の短付高台。	○ 高台および体部内外面ともにロクロロナデ 調整。		胎土：精 良 色調：胎土は乳白 色 焼成：硬	3 T 第 4 層
13	須 恵 器 杯 甌	口 径 16.9	○ ドーム状の天井部から底部は垂下して丸 くおさめる。	○ 内外面、ロクロロナデ調整。		胎土：精 良 色調：淡灰色 焼成：硬	3 T 第 6 層
14	土 師 器 甌	口 径 14.0	○ しまった頸部から口縁部は屈曲して立ち 上がり、底部を丸くおさめる。 ○ 口縁底部外面に、へう状工具による刻	○ 内外面、横方向のハケ調整の後、横ナデ 調整。		胎土：良 好 色調：淡褐色 焼成：硬	3 T 第 6 層

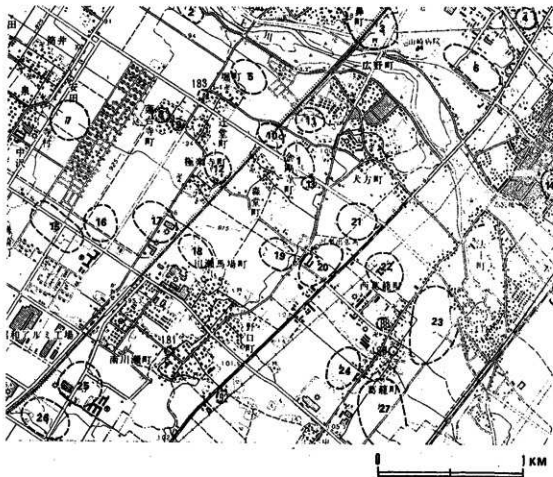
番号	種類・器形	法量 (cm)	形 態	調 整	粘土・色調・焼成	備 考
15	土 師 器 壺	口 径 14.8 高 16.1	形 態 みをほどこす。 ○ 体部は扁平な「そろばん玉」状をなし、 底部は凹み、小さくつくれる。 ○ 断面「三角形」の 刻みをもつ突縁をまわす。 ○ 口縁部は直線的に立ち上がり、唇部を丸 くおさめる。 ○ 頸部下に7条の弱い凹線を入れ、その下 に菱形状の刻みをほどこす。	○ 内面は体部、口縁部とも割製調整のため 不明。 ○ 体部外面は下部がタナ方向の密なヘラ磨 きで、上部は横方向のヘラ磨き調整。 ○ 口縁部は、タナ方向のヘラ磨き調整。	粘土：良 好 色調：赤褐色 焼成： 硬	2 T 第 5 層
16	土 師 器 壺	口 径 11.7	形 態 ○ 口縁部はしまった頸部から開き、屈曲し て立ち上がり、唇部を丸くおさめる「受け 口」状をなす。 ○ 体部は円筒状に開き、球形にちがひ形状 をなすと考えられる。	○ 体部内面はナデ調整で、外面はハケ調整。 ○ 口縁部は内外面ともハケ調整後、ナデ調 整。	粘土：やや不良 色調：明白黄色 焼成： 軟	2 T 第 5 層
17	土 師 器 壺	口 径 13.8	形 態 ○ 口縁部はしまった頸部から開き、屈曲し て立ち上がり、唇部を丸くおさめる「受け 口」状をなす。 ○ 外面にヘラ工具による刻みをほどこす。 ○ 体部は球形をなす。	○ 口縁部外面下半分はハケ調整で、上半分 および内面は横ナデ調整。 ○ 体部外面はハケ調整の後、部分的にヘラ 磨き調整。 ○ 体部内面上半分は横方向のハケ調整で、 下半分はナデ調整。	粘土：良 好 色調：暗褐色 焼成： 硬	2 T 第 5 層
18	土 師 器 壺	口 径 16.2	形 態 ○ 口縁部はあまりしまらない頸部から開き、 屈曲して立ち上がり、唇部を強く面取りす る「受け口」状をなす。 ○ 口縁部外面に、ハケ工具による刻 みをほどこす。 ○ 体部は直線的に開く。	○ 口縁部外面はハケ調整後ナデ調整で、内 面はナデ調整。 ○ 体部外面はハケ調整で、内面はハケ調整 の後、部分的にヘラ工具によるナデ調整。	粘土：精 良 色調：明赤褐色 焼成： 硬	2 T 第 5 層
19	土 師 器 壺	口 径 17.2	形 態 ○ 口縁部はややしまった頸部から開き、屈 曲して立ち上がり、唇部を丸くおさめる「受	○ 口縁部は内外面ともハケ調整の後、横ナ デ調整。	粘土：良 好 色調：明褐色	2 T 第 5 層

番号	種類・器形	法量(cm)	形 態	調 整	胎土・色調・焼成	備 考
			け口」状をなす。 ○ 体部は道線的な頸部から内筒して開く。	○ 頸部内面はハケ調整。 ○ 体部外面はハケ調整で、内面はへら状工具によるナデ上げ調整。	焼成：やや硬	
20	土 師 器 罎	口 径18.6	○ 口縁部はよくしまった頸部から開き、強く屈曲して立ち上がり、肩部を外筒に引き出しておさめる「受け口」状をなす。 ○ 体部は外反して開き、強く脚を握るものと思われ、頸部にへらによる施文を入れる。	○ 器表刺痕のため不明。	胎土：良 好 色調：淡赤褐色 焼成：やや軟	2 第 5 層 T
21	土 師 器 鉢	口 径16.5	○ 口縁部はあまりしまらない頸部から開き、屈曲して立ち上がり、肩部を弱く面取りする「受け口」状口縁をなし、口縁部外面下半分に波状文をほどこす。 ○ 体部は扁平な球形をなし、上半分にハケ状工具による格子文をほどこし、その下に4本の凹線を入れる。	○ 口縁部下半分は、内外面ともにハケ調整の後にはナデ調整をほどこし、上半分は内外面ともに横ナデ調整。 ○ 体部外面はナデ調整で、内面は器表刺痕のため不明。	胎土：精 良 色調：白灰色 焼成：硬	2 第 5 層 T
22	土 師 器 小型壺	底径19	○ 小さくつくられた底部から、体部は上が引き伸ばされた「そろばん玉」状をなす。	○ 底部外面は弱いナデ調整で、内面および体部下半分はナデ上げ調整。 ○ 体部外面は密なへら磨きで、内面上部は強い横ナデ調整。	胎土：やや粗い 色調：淡赤褐色 焼成：硬	2 第 5 層 T
23	土 師 器 手づくね土器	底径3.1	○ 底部はやや不整形な平底をなし、体部は内筒気味に外筒して開く。	○ 底部外面は弱いナデ調整。 ○ 体部は内外面ともにハケ調整後に弱いナデ調整。	胎土：良 好 色調：黄灰色 焼成：硬	2 第 5 層 T
24	土 師 器 高 杯	口 径26.0	○ 杯部は、内筒気味に開いた杯底部から屈曲し、やや外反して立ち上がり、肩部を丸くおさめる。 ○ 屈曲部に皺をもつ。	○ 器表刺痕のため不明であるが、内・外面はへら磨き調整の痕跡を部分的に残す。	胎土：良 好 色調：赤褐色 焼成：軟	2 第 5 層 T
25	土 師 器	脚径10.9	○ 脚部は「ラッパ」状に開き、肩部を丸く	○ 杯部は内外面とも密なへら磨き調整。	胎土：やや粗い	2 T

番号	種類・器形	法量(cm)	形	型	調	装	胎土・色調・焼成	備考
	高 坏		おさまる。 ○ すかしは、やや不整形な3穴をうがつ。			○ 胴部外面はやや粗いへう磨き調整で、内面は粗いハケ調整の後、ナデ調整。	胎土：黄褐色 色調：黄褐色 焼成：硬	第5層
26	土 師 器 器 台	口 径16.9	○ 器台部は内湾気味に開き、端部を垂下させ、断面「三角形」につくる。 ○ 胴部は「ラッパ」状に開き、すかしは3穴をうがつ。 ○ 器台部はやや内湾して開く。			○ 器台部は内外面ともに密なへう磨き調整。 ○ 胴部と器台部との接合部は、内外面ともに横方向のへう磨き調整。 ○ 胴部外面はやや粗いへう磨きで、内面は下半分がハケ調整の後、ナデ調整をし、上半分はしばり痕を残す。	胎土：精良 色調：明赤褐色 焼成：硬	2 T 第5層
27	土 師 器 器 台	口 径11.0 底径 9.9 器 高 8.0	○ 器台部は道徳的に開き、端部を垂下して断面「三角形」をつくり、端部外面にハケ状工具による弱い沈線を入る。 ○ 胴部は「ろうと」状に開き、端部を面取りする。 ○ すかしは3穴をうがつ。			○ 器台部は内外面ともにへう磨き調整か？ ○ 胴部外面はやや密なへう磨きで、内面は下半分がハケ調整の後、ナデ調整で、上半分はナデ調整。	胎土：精良 色調：明赤褐色 焼成：硬	2 T 第5層
28	土 師 器 器 台	口 径12.6	○ 胴部は外縁気味に立ち上がり、口縁部は外湾して開き、端部を弱く垂下しておさまる。			○ 器台部は内外面ともに密なへう磨き調整で、上半分はナデ調整。	胎土：精良 色調：明赤褐色 焼成：やや軟	2 T 第6層
29	土 師 器 器 台	口 径10.4 器 高 10.8	○ 器台部は道徳的に開き、底部は丸成。 ○ 胴部は強いナデで凹み、口縁部は外傾して立ち上がる「く」の字をなす。			○ 器台部は内外面ともに密なへう磨き調整で、上半分はナデ調整。 ○ 胴部内面は、下半分がへう磨きの後ハケ調整で、上半分はナデ調整。	胎土：精良 色調：灰白灰色 焼成：硬	2 T 第6層
31	土 師 器 器 台	口 径14.4	○ 器台部は道徳的に開き、口縁部を上方方向と下方に引き出し出して環状につくり、端部			○ 器台部は内外面ともに密なへう磨き調整で、口縁部は横ナデ調整。	胎土：精良 色調：明赤褐色	2 T 第6層

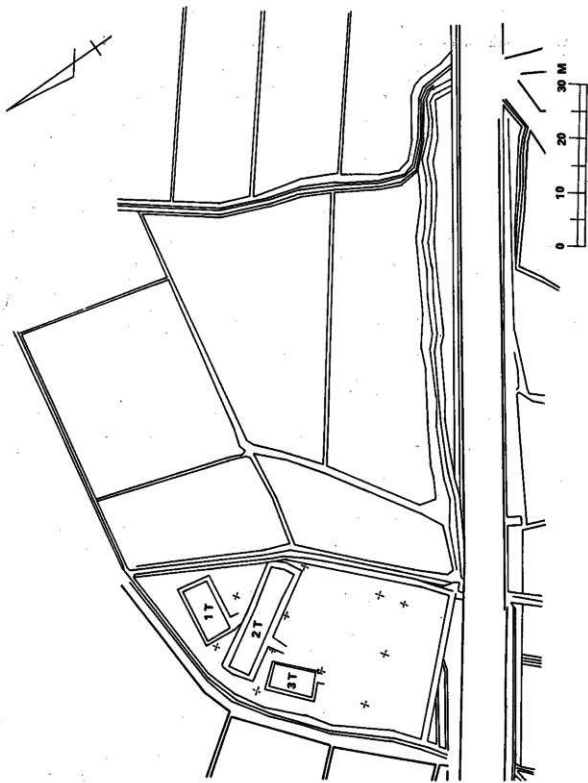
番号	種類・器形	法量(cm)	形	産	調	整	胎土・色調・焼成	備考
			外面に棒状浮文を刻み、7条の凹線を入れる。 ○ 胴部は柱状部から「ラッパ」状に開き、すかしは3穴をうがつ。		○ 胴部外面は密なへら磨き調整で、内面はしぼり限を焼すが、ナデ調整。		胎土：良好 焼成：硬	
32	土師器 壺台	口径19.9	○ 器台は直線的に開き、端部は垂下しておさめる。		○ 器台部はへら磨き調整。 ○ 口縁部は横方向のへら磨き調整。		胎土：良好 色調：淡灰褐色 焼成：硬	2 第6層
33	土師器 器台	胴部径15.2	○ 胴部は「ラッパ」状に開き、端部を面とりしておさめる。 ○ すかしは3穴をうがつ。		○ 胴部外面はへら磨き調整。 ○ 胴部内面は下半分ハケ調整の後ナデ調整で、上半分はへら工具によるナデ調整。		胎土：良好 色調：淡灰褐色 焼成：硬	2 第6層
34	土師器 壺	口径14.3	○ 胴部は強く外開して開き、端部を垂下しておさめる重下口縁。		○ 胴部内面下半分は指須の調整痕を残し、別いナデ調整で、上半分はへら磨き調整。 ○ 胴部外面および口縁端部は、ナデ調整。		胎土：良好 色調：暗赤褐色 焼成：硬	2 第7層
35	土師器 壺	口径15.1	○ 胴部は強く外開して開き、端部を面取りして下部を弱く垂下しておさめる重下口縁。 ○ 体部は内開して開く。		○ 胴部は内外面ともにハケ調整の後ナデ調整。 ○ 口縁部は強い横ナデ調整。		胎土：良好 色調：淡灰褐色 焼成：硬	2 第7層
36	土師器 壺	口径19.7	○ ややしまった胴部から口縁部が開き、器曲して立ち上がり、端部を面とりしてやや外面に引き出す。 ○ 体部は内開して開く。		○ 体部は内外面ともにハケ調整。 ○ 胴部および口縁部はハケ調整の後ナデ調整と思われるが、内面は器表調整のため不明。		胎土：良好 色調：明赤褐色 焼成：やや軟	2 第7層
37	土師器 壺脚台	脚台径7.2	○ 脚台部は内開して開き、端部を丸くおさめる。 ○ やや勝手につくられる。		○ 脚台部は内外面ともに器表調整のため不明であるが、ナデ調整か？		胎土：良好 色調：暗赤褐色 焼成：やや軟	2 第7層
38	土師器 壺脚台	脚台径7.3	○ 脚台部は「ろうと」状に開き、端部を丸くおさめる。		○ 脚台部外面はナデ調整で、内面はハケ調整。 ○ 底部外面は指須でおさえて調整し、指圧		胎土：良好 色調：淡赤灰色 焼成：硬	2 第7層

番号	種類・器形	重量(cm)	形	製	調	整	胎土・色調・焼成	備 考
39	土 師 器 高 杯	口 径 11.2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 坏部は造物的に開き、弱く細出し、内端気味に立ち上がる。 ○ 屈曲部外面には腰をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 坏部外面は密なへう磨き調整。 ○ 坏部外面は器表剥脱のため不明であるが、へう磨きと思われ、内面は密なへう磨き調整。 ○ 屈曲部外面は、ハケ調整。 	胎土：精 良 色調：明赤褐色 焼成：やや軟	2 第 7 層	T	
40	土 師 器 高 杯	脚部径 12.4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 脚部は「ラッパ」状に開き、端部を丸くおさめる。 ○ すかしは、外側から比較的小さな穴を3穴うがら、内面に粘土の盛り上がりをつくす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 脚部外面は密なへう磨き調整。 ○ 内面下半分は横ナゲ調整で、上半分はへう状工具による調整 	胎土：良 好 色調：明赤褐色 焼成：硬	2 第 7 層	T	
41	土 師 器 高 杯	脚部径 15.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 脚部は「ラッパ」状に開き、端部を丸くおさめる。 ○ すかしは3穴か？ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 脚部外面は密なへう磨き調整。 ○ 内面下半分は、ハケ調整の後にナゲ調整で、上半分はナゲ調整。 	胎土：良 好 色調：淡赤灰色 焼成：硬	2 第 7 層	T	
42	土 師 器 高 杯	脚部径 8.8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 脚部はしっかりと脚柱部から、端部は「ラッパ」状に開き、外面は面取りしておさめる。 ○ すかしは2穴をうがら。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 脚部外面および内面下半分は、ハケ調整の後に横ナゲ調整。 ○ 内面上半分はしぼり痕を残し、不調整。 	胎土：良 好 色調：淡白灰色 焼成：硬	2 第 7 層	T	
43	土 師 器 器 台	口 径 12.6 脚部径 8.6 器 高 9.3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 器台部は外側気味に開き、端部を断面「三角形」に臺下させておさめる臺下口脱。 ○ 脚部は器台部との接合部があまりしりすまらず、「らうと」状に開き、端部を丸くおさめる。 ○ すかしは3穴をうがら。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 器台部内面はやや粗いハケ調整で、口縁部はナゲ調整の後に、外面下半分にハケ状工具による弱い裏凹線を2条入れる。 ○ 脚部外面はやや粗いハケ調整で、内面は粗いハケ調整の後にナゲ調整。 ○ 器台部と脚部との接合部は内面ともに横ナゲ調整で、脚部はナゲ調整。 	胎土：良 好 色調：明赤褐色 焼成：硬	2 第 7 層	T	

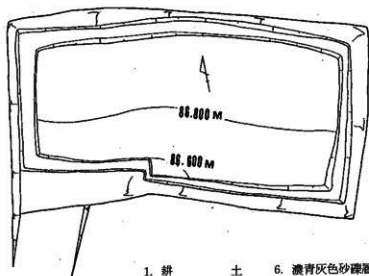
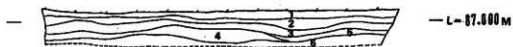


図版1 調査地点と周辺の遺跡

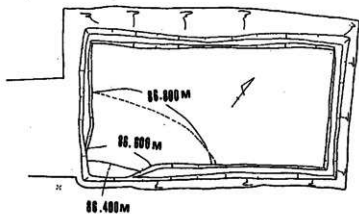
1. 堀南遺跡 (今回調査地)	10. 石原遺跡	19. 天田遺跡
2. 上沢尻遺跡	11. 横地遺跡	20. 極楽寺遺跡
3. 竹ヶ鼻廃寺遺跡	12. 辻ノ東遺跡	21. 段ノ東遺跡
4. 遊行塚遺跡	13. 神ノ木遺跡	22. 葛籠北遺跡
5. 門田遺跡	14. 高宮城跡	23. 法士南遺跡
6. 丁田遺跡	15. 馬場遺跡	24. 南川瀬南遺跡
7. 寺村遺跡	16. 鶴ヶ池遺跡	25. 十八遺跡
8. 蓮台寺遺跡	17. 杉田遺跡	26. 横田遺跡
9. 蓮台寺城遺跡	18. 西海道遺跡	27. 葛籠南遺跡



図版2 堀南遺跡トレンチ配置図



- | | |
|-------------|------------|
| 1. 耕 土 | 6. 濃青灰色砂礫層 |
| 2. 灰色粘質土層 | 7. 淡灰褐色粘土層 |
| 3. 灰褐色粘質土層 | 8. 褐灰色粘土層 |
| 4. 濃褐黄色砂層 | 9. 濃灰色粘土層 |
| 5. 濃褐黄色粘質土層 | |

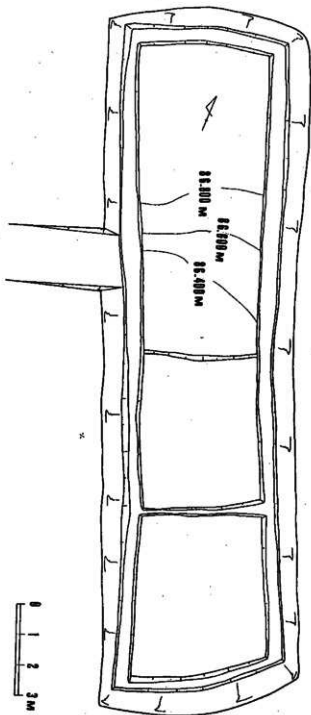


— L-87.000 M —

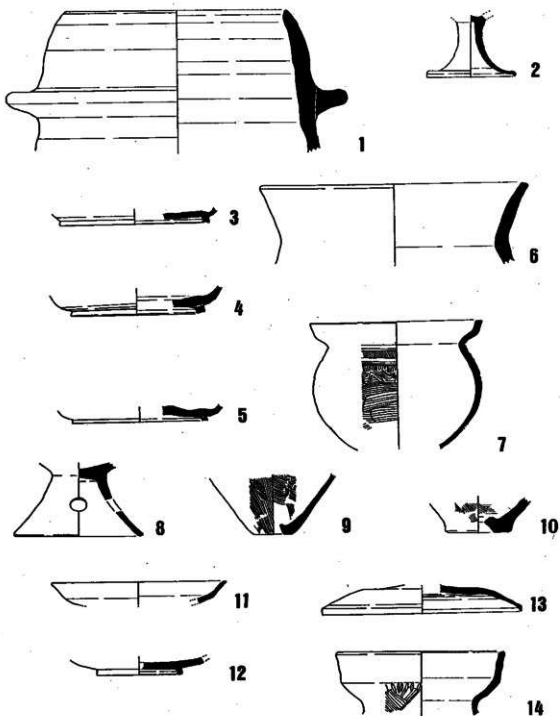


図版3 1トレンチ・3トレンチ図および断面図

- | | | |
|------------|---|-------------------|
| 1. 耕 | 土 | 5. 濃褐色粘土層 |
| 2. 褐灰色粘質土層 | | 6. 黒灰色粘土層 (腐食土痕り) |
| 3. 灰色粘土層 | | 7. 濃灰褐色砂混り粘土層 |
| 4. 淡灰色粘土層 | | 8. 濃褐色砂混り土 |

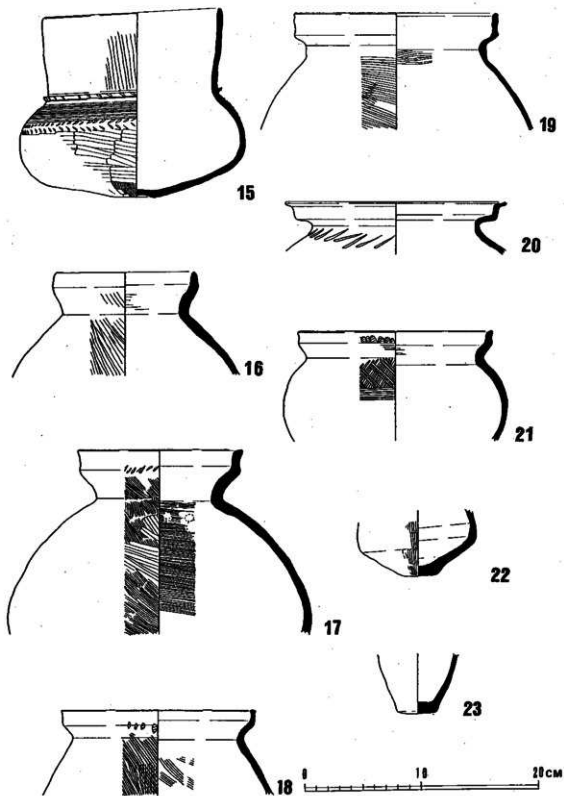


図版 4 2 トレンチ図および東壁断面図

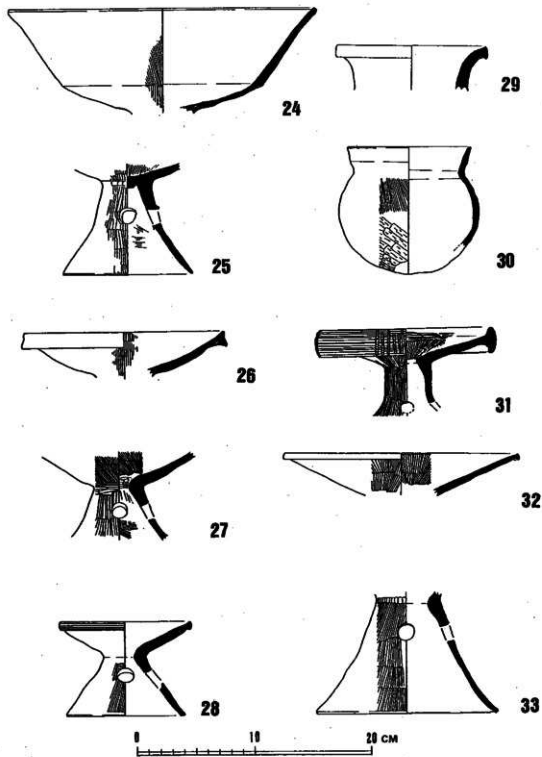


0 5 10 15 CM

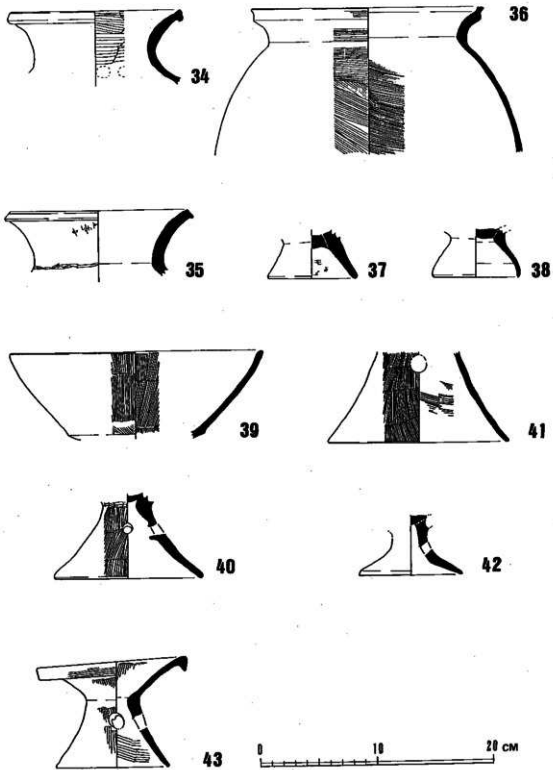
图版 5 堀南遺跡出土遺物実測図



图版 6 堀南遺跡出土遺物実測図



图版 7 掘南遺跡出土遺物実測図



图版 8 堀南遺跡出土遺物実測図



1 トレンチ掘込状況



写真図版1 3 トレンチ掘り込み状況



2 トレンチ掘込状況



写真図版 2 2 トレンチ掘り込み作業風景



2 トレンチ遺物出土状況



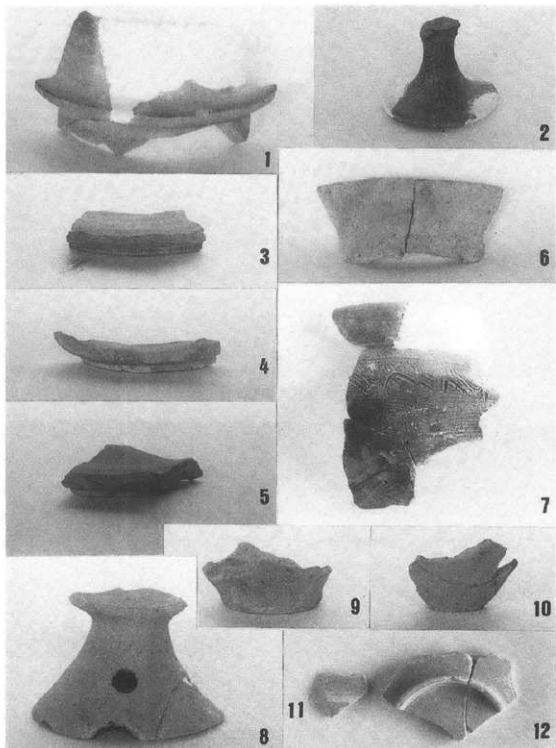
写真図版 3 2 トレンチ遺物出土状況



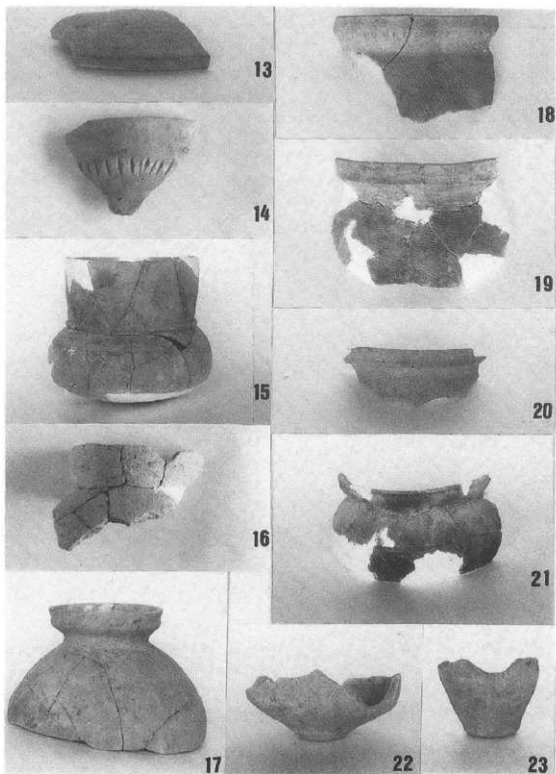
2 トレンチ遺物出土状況



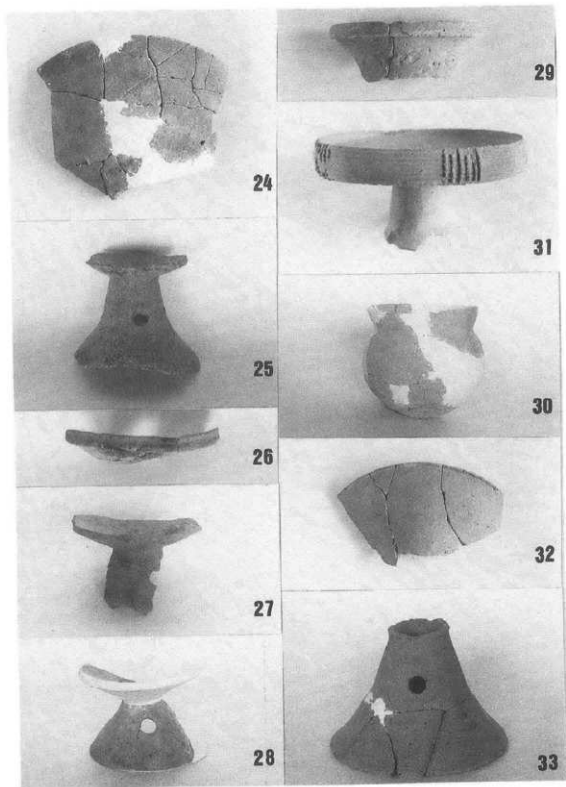
写真図版 4 2 トレンチ遺物出土状況



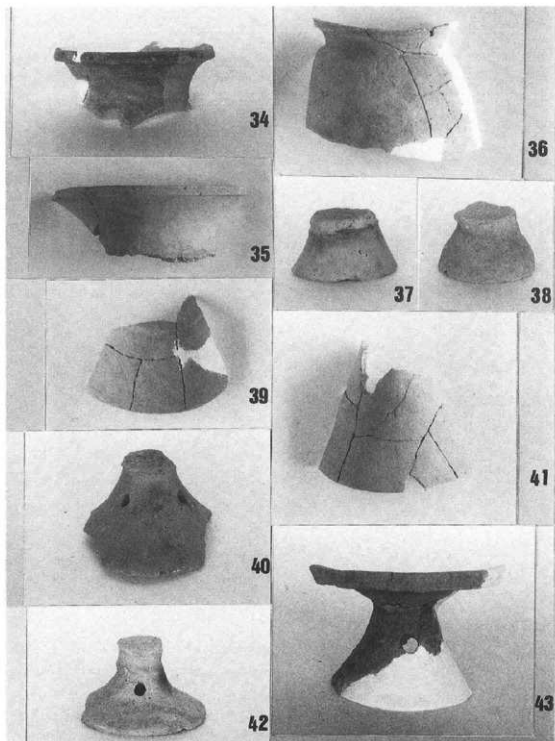
写真図版 5 堀南遺跡出土遺物



写真図版6 堀南遺跡出土遺物



写真図版7 堀南遺跡出土遺物



写真図版 8 堀南遺跡出土遺物

彦根市埋蔵文化財調査報告第22集

編 南 遺 跡

＝第2次調査＝

平成4年3月

編 集 彦根市教育委員会

発 行 彦根市教育委員会

印 刷 例つくし出版印刷

